

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 9 September 1988

泌尿器科紀要

第34巻 第9号 1988年9月

【原著】

- ヒト膀胱癌由来培養細胞株, KK-47 に対する
抗癌剤と温熱の併用殺細胞効果……………新田 政博・ほか…1525
- 尿酸結石, とくに尿酸カルシウムとの混合結石の構築
—薄切標本の偏光顕微鏡による観察—……………竹内 秀雄・ほか…1529
- 尿路結石再発に関する臨床的検討
(3) Na 摂取と尿中 Ca, 尿酸, 尿酸, P, Mg 排泄について……………村山 鉄郎・田口 裕功…1537
- 尿路結石再発に関する臨床的検討
(4)尿中結晶と尿路結石再発について……………村山 鉄郎・田口 裕功…1543
- 上部尿路結石の再発について……………三橋 慎一・ほか…1549
- 腎結石開腹手術例における超音波検査および排泄性
腎盂造影法の診断力についての検討……………井関 達男・結城 清之…1557
- 腎動脈塞栓術後の腎病患者にみられる傍糸球体細胞,
腎髄質間質細胞の過形成(英文)……………中田 瑛浩・ほか…1561
- 尿路結石症以外の上部尿路疾患に対する内視鏡的手術の検討……………藤沢 真・ほか…1569
- エコーガイド下経皮的腎嚢胞穿刺に対するエタノール注入療法
—とくに副作用を中心として—……………古田 秀勝・ほか…1575
- 腎盂尿管腫瘍33例の臨床的検討……………山口 聡・ほか…1579
- 琉球大学における膀胱腫瘍の治療法とその臨床効果について
—86症例の治療経験—……………佐藤 健・ほか…1589
- 膀胱全摘除術後に上部尿路腫瘍の発生をみた膀胱移行上皮癌の4例……………西尾 恭規・ほか…1593
- 尿道膀胱鏡検査後の尿路性感染症に対する予防と対策……………大石 幸彦・ほか…1601
- 経尿道的前立腺切除術の手術成績……………中島 洋介・ほか…1607

【症例】

- 増大傾向を示した内分泌非活性副腎皮質腺腫の1例……………佐藤 信夫・ほか…1613
- 手術中に偶然発見した腎腫瘍の2例……………倉内 洋文・ほか…1617
- Von Hippel-Lindau 病に合併した両側腎腫瘍の1例……………小松 和人・ほか…1621
- 腎盂自然破裂の1例……………水尾 敏之・谷澤 晶子…1627
- 腎周囲リンパ管遮断術後腎動脈血栓症の1例……………滝川 浩・ほか…1631
- 腎被膜より発生したと思われる平滑筋芽細胞腫
(Leiomyoblastoma) の1例……………大石 睦夫・ほか…1635
- 術後乳糜腹水を生じた後腹膜 benign cystic teratoma の1例……………横山 修・ほか…1639
- 低カルシウム血症を伴った原発性尿管腺癌の1例……………菅尾 英木・ほか…1645
- 異所性骨形成を伴った膀胱移行上皮癌の1例……………仲地 研吾・ほか…1651
- 石灰化を伴った尿管管癌の1例……………諸角 誠人・ほか…1657
- 進行陰茎癌に対する集学的治療の1例 —大腿筋膜張筋皮弁併用例—……………稲垣 尚人・ほか…1661
- 膿瘍形成を伴う化膿性睾丸炎の1例……………沼 秀親・ほか…1665

【治験】

- 腎性高血圧における Metoprolol (Seloken®) の臨床的効果……………安本 亮二・ほか…1669
- 複雑性尿路感染症に対する Piperacillin の臨床的再検討……………上野 学・ほか…1675
- カンジダによる尿路感染症におけるフルシトシンの臨床効果……………安本 亮二・ほか…1679
- Minocycline の前立腺組織移行に関する検討……………川嶋 秀紀・ほか…1683
- クラミジア性尿道炎に対する Ofloxacin の治療効果……………由利 和也・ほか…1687

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1988年1月改訂)

- i. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)、図(Fig.)5枚、表(Table)3枚までとする。
 - (3) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。ワープロを使用する場合もB5版原稿用紙に1枚20×20字とする。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2語からなる running title を付記する。
例；山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (6) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (7) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (8) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレスして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (9) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文(ワープロ可)はダブルスペースでタイプする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると...
- 雑誌の場合—著者名(全員)：標題。雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年
例1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. J Urol 124: 205-207, 1980
例2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田 修: 経尿道的腎碎石術(PNL)および経尿道的尿管碎石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987
- 単行本の場合—著者名(全員)：標題。書名, 編集者名, 版数, 巻数, 引用頁, 発行所, 出版地, 発行年
例3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp.331-334, Plenum Press, London, 1976

例4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp. 259-301，南江堂，東京，1986

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し，オリジナルを書留で送付する。
(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (9) 論文の採否：論文の採否は編集委員で決定し，連絡する。
(10) 論文の加筆訂正：審査の結果，編集方針にしがって原稿の加筆，削除，および一部分の書き直しをお願いすることがある。また，編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある。
(11) 校正は初校を著者による責任校正とし，再校以降は編集部が行う。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
(12) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。
3. 掲載
- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。
迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。
(2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
(3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については，掲載料を別途に申し受ける。
4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer•PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員： 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重
新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第34巻 第9号 1988年9月25日 印刷 1988年9月30日 発行
発行所 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301号 電話 (075) 752-0100
FAX (075) 752-0190
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
